

褥瘡だより 35号

2019年11月発行 ふくの若葉病院 褥瘡対策委員会

今回は拘縮の強い患者のポジショニングを提案します。

病棟で拘縮のある患者さんが入院した時、ポジショニングをどうしようと悩んだ事はないですか？「クッションを使ってもうまくポジショニングできない…」や「どこにクッションを入れればいいのか？」など困ることがあると思います。今回は事例でポジショニングの紹介をします。参考にしてみてください！

事例1 脳梗塞 左片麻痺の事例



膝関節や股関節の拘縮
が出ている為、
**麻痺側下肢の筋緊張が
高い状態**の為拘縮が進
行しやすい

左側臥位時



仰臥位時

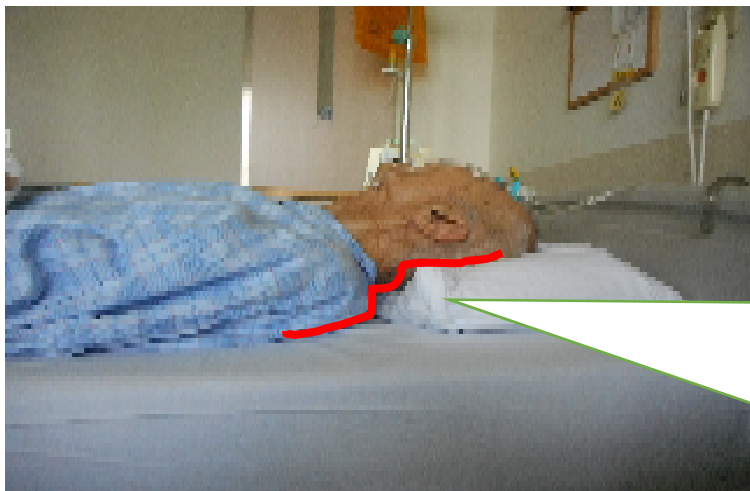


拘縮している
下肢に対して
空間を埋める
為クッションを
置く



麻痺側下肢を伸
ばして空間を埋
めるようにクッシ
ョンを入れる

事例2 パーキンソン氏病 筋緊張が高い事例



後頸部が後屈し
枕と肩の間に隙
間ができている



頭部から肩甲骨
にかけて接触面
が広がるように
体の下にクッシ
ョンを敷く。
隙間ができない
よう注意する。

拘縮のある人のポジショニングポイント

- * 筋の緊張を和らげるように面で支える
- * 拘縮や変形により体圧分散が不良になる為、空間を埋めるようにクッションを使用する